

# 発 言 通 告 書

第 号	2月29日	時 分	受 領
発言の種別 いずれかに ○印のこと	(○) 一般質問		( ) 予算総括質疑
	( ) 決算総括質疑		
発言の要旨 (大項目・細部に分けてできるだけ具体的に)			答 弁 者
1.	子どもの貧困率と子育て支援策について 深刻化する貧困の連鎖がもたらす社会的ひずみ (1) 子ども貧困対策に長井市らしい対策を (2) 子ども基金の創設と在宅児童手当の制度化 (3) 子どもの保育環境の整備(遊びの場・交流の場)		市長 厚生参事
2.	長井市の財政展望について (1) 財調基金の現在高をどう見るか (2) 庁舎新改築をはじめ優先順位や今後計画の明示		市長 財政課長
3.	沖縄金武町交流をさらに活発にするために (1) 交流のきっかけとなった伊佐沢地区の思いを市民レベルに拡大し、姉妹都市提携など第二ステップへ		市長
上記のとおり通告いたします。 平成28年2月29日 長井市議会議員 渋谷佐輔 様			
			長井市議会議員 蒲生光男 印

私はフォーラム 21 を代表して質問いたします。答弁は簡潔明瞭にお願いいたします。質問項目は 3 点です。順次質問いたしますのでよろしくお願いいたします。なお、質問項目 3 点目の金武町との交流に関しまして安部議員から関連質問を予定していますのでよろしくお願いいたします。

まず、昨年議会の改選があり、2 年目を迎えるわけですが、今定例議会は 14 議員が質問に立ちます。これまで過去最大の質問人数となるわけですが、一般質問は、市政全般に対しそれぞれの立場や思いや思想を背景に思いのたけを述べ、活発な論戦を期待されていると思います。理想とする質問になるかわかりませんが宜しくお願いします。

第一点目の質問ですが、子どもの貧困率と子育て支援策について、であります。この問題は、昨年 6 月、9 月でも質問していますが、6 月では長々と質問し厚生参事から答弁をいただけなかった反省を踏まえ、通告した質問項目は必ず質疑ができるように配慮して申し上げたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

市長からは、子育て支援策として、①在宅育児手当の創設 ②子育て応援基金の創設 ③子育て環境の充実策 など、行政の長としての、長井市の行くべき道筋を提案に沿って示していただければと思います。

また、厚生参事からは、在宅育児手当や子育て基金の他市市町の実例、内容等について説明いただきたいと思います。

深刻化する子ども貧困については、既に申し上げてきておりますが、再度触れさせていただきます。貧困率は、低所得者の割合を示す指標。厚生労働省が 2014 年 7 月にまとめた「国民生活基礎調査」によると、等価可処分所得(の中央値の半分の額に当たる「貧困線」(2012 年は 122 万円)に満たない世帯の割合を示す「相対的貧困率」は 16.1%だった。これらの世帯で暮らす 18 歳未満の子どもを対象にした「子どもの貧困率」も 16.3%となり、ともに過去最悪を更新した。日本人の約 6 人に 1 人が相対的な貧困層に分類されることを意味する。

この調査で生活意識が「苦しい」とした世帯は 59.9%だった。貧困率が過去最悪を更新したのは、長引くデフレ経済下で子育て世帯の所得が減少したことや、母子世帯が増加する中で働く母親の多くが給与水準の低い非正規雇用であることも影響した、と分析されている。しかし、近年母子世帯だけでなく、父子世帯を含めたひとり親世帯の増加などもこれに一層拍車をかけているのではないかと思います。

長井市の人口は、ピーク時 38,000 人を超えていましたが、今では 27,000 人台と 1 万人以上減少しています。内谷市長就任時、3 万人復活事業の項目もありましたが、現在では人口減少に歯止めがかからない状態です。

人口減少は、地域の活性化を失わせるばかりか、地域コミュニティーの崩壊のみならず自治体の消滅につながります。時代は変わって、生き方や働き方にも多様性が求められるようになりましたが、母子父子家庭の増加、核家族化と相まっ

て、今こそ各自治体間の知恵比べや思い切った子育て支援策を推進するべきだと思います。

そこで、長井市らしい子ども貧困対策や子育て支援策について、また、在宅育児手当については、既の実施している県内自治体もあるようですので、その内容と、長井市で実施する場合対象となる人数などについて、主に具体的な内容は厚生参事から、制度ととして導入する考えはないのか、子育て基金の創設については、昨年10月1日政府は「子供の未来応援基金」を創設しました。」記事では、政府は1日、日本財団と協力して低所得世帯の子どもを支援するための「子供の未来応援基金」を創設する。子どもの貧困に関する情報が集約されたホームページも開設する。国や都道府県が行う子どもの貧困支援の内容が地域別や種類別に検索できる。子どもの貧困に取り組むNPOなどが必要とする行政サービスを探しやすくする。今後は民間企業の支援情報も提供する。

基金では、寄付金をはじめとして企業や個人から資金を募る。集めた資金は子どもの貧困支援に取り組むNPOなどに助成するほか、貧困問題を抱える子どもの居場所となる拠点施設を整備する。来年4月にも全国数カ所で設置し、毎年1～2カ所ずつ全国に広げていく。としています。

基金を創設するにあたって、民間の寄付も期待されているところですが、アメリカなどと違って「寄付文化」の違いから、日本ではなかなか集まらない事情もあります。ふるさと応援基金のように、還元のある場合は違いますが、将来に向けた取り組みに対する寄付は理解はするものの資金量となると難しい現実があると思います。

市長からは、子育て応援基金の創設をして、長井市の子ども子育てに資するよう提案しますがご所見をお願いします。さらに、子育てに必要な学び遊ぶ場所について、ヨーク2階を使うことに対し期待感があると思います。市だけではあの建物全体をこなすことは大変ですが、2階部分と限定して活用方策を考えれば、子どもの学びと遊びの場保護者の交流の場として活用価値が高いと思います。市長の見解をお願いします。

質問の2点目ですが、長井市の財政についてであります。新年度予算編成では、財調基金からの取り崩して歳入に充てる額は、5億4千万円、基金残高は2億強となります。財調基金は、不測の財源不足に対応するための財源であり、市の財政の自由度を占う大事なものです。昨年引き続き取り崩すことになったわけですが、今後の市の庁舎改築をはじめとする公共施設整備の全体量からすると極めて心もとない水準ではないかと思えます。28年決算でどこまで戻せるのかはわかりませんが、こうした財政運営について市長の見解をお願いします。財政課長からは、主に財調基金の基金残高について、近隣の状況を説明願います。

財政運営について、健全な財政を維持するためには、毎年度の予算編成に際し

て、政策的な経費も含め、基本的な歳出は税金など自治体の基本的な歳入の範囲で編成し、収支の均衡を図ることが必要です。

年度間の財源調整に積立基金を活用することで、財政運営の弾力性が増し、財政需要に的確に応えることが可能となります。しかし、長井市の基金残高は低い状況であり、不測の事態などに対処できる積立基金残高の確保が必要となります。

そこで、長井市の財政規律を明確にして、中長期的財政運営を確実なものとする必要があるのではないかと思います。例えば、各年度の予算編成は、基金に依存せず、その年度の歳入の範囲内で行うことを基本とします。やむを得ず基金を取り崩す場合でも、金額を極力抑制し、各年度末の財源活用可能な積立基金の残高が最低でも10億円を維持するようにします。

特例市、特別区でない一般自治体は、財調基金の適正規模として、標準財政規模の10%とされているところが多いといわれていますが、この根拠は何か財政課長かお答えください。長井市の場合これによる算出金額は7億5千万から8億円程度になると思いますが、この金額との比較では低い水準であることは言うまでもありません。

庁舎改築をはじめ、市民会館など公共施設の改修改築などを包括的に見た場合優先順位付けと財政規律の両輪の手綱をコントロールするための市長の見解をお願いします。

質問の3点目であります。沖縄金武町との交流についてお聞き致します。

金武町との最初の交流は、平成5年2月11日から14日まで、3泊4日の日程で向山山荘での交流でしたが、伊佐沢地区公民館富永さんから頂いた資料によりますと、金武町出身の方が伊佐沢地区内の企業で働いており、その後、金武町に戻り、冬期間伊佐沢で過ごしたことが忘れられず、金武町の子どもにも雪国の体験をと交流事業を企画しました。当時は、子供会同士の交流。その後地区の交流に発展してきました。以来、金武町からは13回、伊佐沢からは8回の相互交流が行われてきました。

地区住民同士の交流は、やがて10周年に当たる平成17年2月に金武町・長井市との物産交流に発展してまいりました。平成19年5月伊佐沢コミュニティー施設完成祝賀会では、雄飛太鼓の演奏をしていただいたとのことです。

交流10周年誌の巻頭の発刊に当たって、では、当時の並里区公民館長であった仲間一氏、現在の町長記載による発刊に当たってをそのままご紹介します。

「憧れ! 南国沖縄で育った私たちには雪国で生活してみたいという思いが強い。初めて雪を見、触れたのが19歳の東京滞在中で、雪が降っているとの友人の言葉を聞く間もなく外へ飛び出し、夜の空を見上げた。真黒な空から白い雪が…、感動で鳥肌が立つ。(寒さのせいではない) あたり一面真っ白に積り、雪を口に入れたり足跡をつけたりと子どものように寒さも、時間のたつのも忘れ雪と戯れたのを昨日のように思い出します。並里区の子どもたちに、あの日の感動を体感してもらいたいとの思いから、雪国との交流を模索、幸い並里区の嘉数義政氏が

山形県に知り合いがいて紹介してもらい、長井市伊佐沢地区大沼久氏会い会田館長を紹介され交流の目的を告げ協力をお願いする。この交流事業の架け橋してお二人のご尽力がなければ実現が難しかったのではないかと思います・・・」中略と、記されています。

伊佐沢地区の皆様のごこれまで20年間の取り組みは、今では長井水祭りの物産販売やエイサーの披露など欠かせないものとなっています。しかし、近年児童数の減少など、これまでの通りの取り組みも難しい一面もあり、20年を機に姉妹都市提携や新たな交流事業の模索も必要なのではないかと思っています。

伊佐沢地区・並里区の交流は本流としながらも、希望者をもっと広く募り交流の輪が広がることを期待されているのではないかと思います。今年は特に訪問をする年とお聞きしていますが、市長も一度訪問されたらとご提案する次第です。

長井市は、結城市やバードゼッキンゲン市、双鴨山市、フラワー都市交流、それに災害発生時の広域応援体制で提携している市などありますが、市民交流の先駆けとなりこれまで実績を積み上げてこられた、金武町との交流事業に市も積極的に関わりあった進める第二ステージへと歩を進めるべきではないかと思いますが市長の考えを伺いたいと思います。

なお、この件に関しては、これまで3度金武町を訪問されています、安部議員から関連質問がありますのでよろしくお願いします。

以上壇上からの質問と致します。ご清聴ありがとうございました。